

まとめ～閉会の辞 S. パトルガ（日本語教育シンポジウム実行委員長）

モンゴルにおける日本語教育の背景には、モンゴルにおける外国語教育界があります。数年前から、私たちはそのような場で何とか自分の意見を届けたいと努力してきました。特にこの1年は、本当に苦労が多く、また一方で楽しく、成果の大きい1年だったと思います。私も一人の日本語の教師として、また人間として、この1年と今回のシンポジウムから大きな学びを得ました。

嶋田先生も最後におっしゃったように、今ここで原点に戻って考えることが大切です。教材作成に夢中になるあまり、大切な原点を忘れてしまうことがあるかもしれません。私たちは何のために日本語と言う外国語をモンゴル人に教えているのか、その活動を通して何を求めているのか、ということが一番重要なことです。

今回のシンポジウムの先生方のご発表の中に、いくつものキーワードがありました。齋藤先生からの「対等」「プロセス」「創造」、嶋田先生からの「文化の3P」というキーワードは、私たちが一つになって、モンゴルのスタンダードを考えていくとき、また教科書作成にかかわっていくとき、忘れずに考え続けていくべきことだと感じます。

日本語教師会としても、このプロジェクトを何とか続けていきたいと考えています。もちろん私たちだけではうまくいかない時もあるでしょう。その時、重要になってくるのは、一つには実際に現場で日本語を教えられている先生方です。一緒に考え、一緒に作っていくという協力が不可欠です。もう一つは、モンゴルにいる日本人の先生方です。先生方の存在なくして何ができるでしょうか。改めて感謝を申し上げたいと思います。

嶋田先生、齋藤先生にも、またお会いできることを願っております。私たちをこれほど応援してくださることに深く御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援・ご指導をどうぞ宜しくお願い致します。

モンゴルにおける日本語教育の今後一層の発展と皆様のご健康をお祈りし、今回のシンポジウムを終わりにしたいと思います。皆様、二日間、どうもありがとうございました。

